

野手の正面ばかりで、1点を返すのがやっと。それでも、最終回までナイン全員が声を出し続けた。

四回に適時打を放った西村宏彰君(一)多田東小6年IIは「点を取られても暗くならないように活気づけた」。時岡泰伸監督(三)は「打線は上向き。なんとか決勝大会へ進みたい」と三位決定戦を見据えて力を込めた。

雨に苦戦も 力強い投球

大東浜

○：大東浜イグルスは、途中で降り出した雨に苦しみながらも、最後まで粘り強く戦った。

先制点を許したが、相手チームのミスなどから点差を縮め、適時打で逆転に成功。ところが、すぐに追いつかれ、再び突き放そうとしたが及ばなかった。投手陣は雨に泣かされながらも、力強い投球を見せた。

四回にヒットを放ち逆転に貢献した采女麗人君(二)打出浜小6年IIは「打球は話まっていたが、何とかもっていった。三位決定戦は必ず勝つ」と前向きに話した。

流れ引き寄せ 一気に7得点

長尾南

○：初回から打線が爆発し、3点を先制した長尾南レッドホークス。一度は逆転を許したが、裏の回ですぐに追いつき、相手チームが勢いに乗るのを抑えた。

五回には、雨の影響で制球に苦しむ相手投手から、四球や死球を引き出し、押し出しなどで7点を重ね、コールド勝ちで決勝戦へ駒を進めた。

気合でチームを引っ張った主将の永澤悠君(一)長尾南小6年IIは「決勝では、持ち味である送りバントなどを使えば勝てるはず」と自信を見せた。